平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	吹奏楽ライヴ！in SABAE開催事業	事業コード
		3017

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興 2051

重点施策体系

重点施策	分類(大)	分類(小)
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化 723

PLAN(計画)

部署名	秘書企画課	開始年度	2012	終了年度	9999

目的

吹奏楽のまち”さばえ”をPRし、次世代の子どもたちに夢を与え育てるため、音楽フェスタを開催する。鯖江市内小中学校、丹南地区の高校・吹奏楽団は、福井県代表として、北陸、中部地区大会等でも好成績を収め、全国大会にも出場している。丹南地区の小中高校・吹奏楽団をホスト、鯖江市出身のアーティストをゲストとして、地域住民とともに芸術文化活動の交流を通し、社会全体において、子どもたちが積極的に文化芸術活動を行う意欲を高め生涯にわたって文化活動に参加する環境を醸成する。

概要

6月10日に「吹奏楽ライヴ！in SABAE」を総合体育館で開催する。鯖江市出身のアーティストの生演奏と鯖江市内小中学校、丹南地区の高校・吹奏楽団の子どもたち等の吹奏楽のコラボレーションを中心として、多くの地域住民とともに身近に音楽とふれあい、子どもたちに夢と希望を与える音楽フェスタとする。

法令根拠

実施形態

現在	補助金等交付
内容	

DO(実施)

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
実行委員会の開催	回	目標値			3	3	3
		実績値			3		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
来場者数	人	目標値			2000	2500	2500
		実績値			2000		
計算根拠：スペシャルコンサート　1000人　ライヴ1500人		達成率(%)			100		
		ランク			A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	2,250	2,250
決算額	750	
繰越額		

事業要員

正規職員	0.1
臨時・嘱託	
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。	根拠	
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。	根拠	

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】 維持
平成25年度取組み：吹奏楽のレベルアップと底辺拡大に取り組むため、1日目に課題曲クリニックと愛工大名電高校のコンサートを開催し、2日目に本市出身アーチストと地元の子どもたちとのコラボレーションによるライヴを開催する。合わせて、楽器体験コーナーや市民バンドの演奏会なども開催する。	平成26年度計画：実行委員会と協議しながら、市民の誰もが気軽に音楽と触れ合うことができる吹奏楽のまちづくりを進める。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	可能	可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	ふるさとアート工房事業	事業コード
		375

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興 2051

重点施策体系

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	1990	終了年度	9999

目的

一流の芸術家に触れ合うことでその感性を感じ取ってもらうとともに、その指導を受けながら作品を制作することで、作る楽しさ、面白さへの理解を深める。また、作品制作の題材として、市内に存在する文化財や文化的景観を活用することにより、ひろく鯖江の素晴らしさを実感する。

概要

4月20日（土）と21日（日）に郷土出身の画家である、西山松生氏を招き、「近松座」による公演を鑑賞後、人形浄瑠璃「伊達娘恋緋鹿子　火の見櫓の段」を題材に絵画教室を開催し、西山氏から直接、指導、講評を受ける。と同時に市美展のＰＲも行う。また、今年は近松門左衛門生誕360年記念企画としての、塚本高史トークショーでの出展依頼も行う。さらに、西山真一没後25年、西山真一・松生親子油彩画展を4月20日（土）～5月12日（日）まで開催する。4月21日（日）には西山松生ギャラリートークも行う。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	市が参加者を募集し、西山松生先生に講師を依頼して、無料で絵画教室を開催している。また、作品については、後日、作品展を開催し、先生に講評をお願いしている。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
絵楽塾、作品展示の開催回数	回	目標値	2	2	2	2	2
		実績値	2	2	2		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
絵楽塾、作品展示への受講者の参加者数	人	目標値	80	80	80	80	80
		実績値	100	99	105		
計算根拠：受講したことにより、絵画に対する理解を深め、創作意欲が高まったかどうかを参加人数で判断する。		達成率（%）	125	124	131.3		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円	区分	H24(2012)	H25(2013)
	予算額	426	357
	決算額	367	
	繰越額	0	0

事業要員		
	正規職員	0.2
	臨時・嘱託	0.01
	※所要時間	

タイプ		
	会計	一般会計
	事業タイプ	単独事業
	経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	市民の間に広く参加者を募るために、無料で地元出身者の著名な絵画教室を実施するには、行政の関与が必要である。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	講師の報償費や旅費、宿泊費等事業の実施に欠かせない経費である。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 受益者負担	根拠	受講者から参加料を徴収することは可能である。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ない	根拠	作品は、毎年、文化の館で展示するほか、H23度からは近松まつりでも展示している。会場についても、地域的なバランスに配慮し、市内の文化遺産を広く市民に知っていただけるように努めながら、人形浄瑠璃「近松座」の普及にも努力している。

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】
維持	**維持**
平成25年度取組み：今年度は、近松門左衛門生誕360年記念企画として、人形浄瑠璃　「火の見櫓の段」を題材に、西山松生先生を講師に、絵画教室を実施する。また、作品展を近松門左衛門生誕360年記念事業（塚本高史トークショー）開催時の6月22日と、立待公民館の第16回ちかまつ祭りや、12月開催の第6回市美展で実施する。	平成26年度計画：来年度の題材について、4月20日に西山先生と協議の結果、継続することでさらに良い作品を制作できるとの指導を得たので、引き続き第３弾として近松門左衛門、人形浄瑠璃を題材として会場を変えて、近松会館等で実施したい。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	可能	可能	可能	可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	近松講座	事業コード
		533

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興 2051

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化 723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	1996	終了年度	9999

目的

近世の文豪近松門左衛門が鯖江で幼少期を過ごしたことにちなみ、その史実を市民に周知することにより、歴史に興味と理解を深めるとともに歴史資産を活用したまちづくりを推進する。

概要

「さばえ近松倶楽部」会員や鯖江人形浄瑠璃「近松座」による近松入門講座の開催や専門講座、出張講座を開催する。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	市が直接、講師を選定して、講座を開催している。近松入門講座については、さばえ近松倶楽部の会員や近松座の座員に講師をお願いして開催している。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
講座の開催回数	回	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	7	14	14		

成果指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
講座の参加者数	人	目標値	900	900	900	900	900
		実績値	1400	2100	1242		
計算根拠：講座への参加者数が、理解度・浸透度の目安になる。		達成率（%）	155.6	233.3	138		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24（2012）	H25（2013）
予算額	722	667
決算額	722	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.2
臨時・嘱託	0.01
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	近松門左衛門は、元禄の三大文豪の一人で、その偉大な浄瑠璃・歌舞伎作者が、鯖江市とゆかりがあるという史実を学んで、まちづくりにつなげていきたいと思う市民は多い。
	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	「近松のまちづくり」は、市の基本的な政策の一つである。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能
	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。
	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	必要最低限の経費で実施している。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	近松出張講座や近松バスツアーは、実費分の負担金を徴収している。入門講座は、出前講座であるので、負担金を徴収することは、不可能である。
	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	まちづくり交付金を活用してつくられた施設をもさらに活用していく必要がある。

ACTION

【平成25年度　方向性】 維持

平成25年度取組み：近松入門講座は、「さばえ近松倶楽部」と「近松座」とが連携して実施する。また、専門講座として、近松ゆかりの地への解説付き出張講座を実施する。

【平成26年度　方向性】 **維持**

平成26年度計画：近松入門講座は、「さばえ近松倶楽部」と「近松座」とが連携して実施する。また、専門講座として、近松ゆかりの地への解説付き出張講座を実施する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	可能	可能	可能	可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	鯖江市文化協議会事業補助金	事業コード 583

総合計画体系

基本施策体系	基本目標	属性	基本施策	実施施策
	豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興 2051

重点施策体系

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	0	終了年度	9999

目的：文化振興に寄与する文化団体の育成を図る。地方文化の向上を図るため、伝統的文化、芸能、行事等の育成、ならびに継承保存に努め豊かな文化のふるさとづくりを図る。

概要：鯖江市文化協議会に対する補助金の交付。文化のふるさとづくりに要する経費。

法令根拠：

実施形態
- 現在：補助金等交付
- 内容：市において補助金を交付。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
構成団体の数	団体	目標値	33	34	34	35	35
		実績値	33	33	34		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
構成団体の構成員数	人	目標値	350	350	350	350	350
		実績値	360	360	352		
計算根拠：構成員の増加は活動の活性化を示す		達成率（%）	102.9	102.9	100.6		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円 区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	2,150	2,150
決算額	2,150	
繰越額	0	0

事業要員	
正規職員	
臨時・嘱託	
※所要時間	16

タイプ	
会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	補助費等

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK（評価）

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	心のゆとりややすらぎを求める風潮から、市民の市民主体の文化芸術活動に対するニーズは十分にある。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	市民が主体となった文化振興の中心的団体である文化協議会への助成は、行政が行うべきである。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	補助金であるので、補助団体が事業を縮小しない限り困難である。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	市が交付する補助金であるので、今以上に財源を確保する方法はない。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ない	根拠	補助金であるので、所管課の指導は必要であるが、補助金を増額しても、基本的には、文化協議会自体の事業であり、成果の向上についても、協議会で考えることである。

ACTION

【平成25年度　方向性】 維持	【平成26年度　方向性】 **維持**
平成25年度取組み：鯖江市文化協議会に対して、市民が主体の文化振興事業を実施してもらうために補助金を交付する。	平成26年度計画：鯖江市文化協議会に対して、市民が主体の文化振興事業を実施してもらうために補助金を交付する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

団体補助等の特定の相手先への補助金や交付金事業のため

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	芸術文化体験事業	事業コード
		2078

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興 2051

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化 723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2010	終了年度	9999

目的

子どもたちが伝統文化や芸術・歴史、産業などを体験することにより、創造性豊かな人間性を育み、次世代の育成に努めるとともに市の文化振興を推進することを目的とする。

概要

従来の伝統文化だけでなく、鯖江市がこれまで築いてきた歴史、伝統、文化、産業などの地域の資源や特性を活かした分野を加え、芸術文化を総合的に体験できる場として、従来の伝統文化体験教室から、さらにレベルアップして実施する。会場は、まなべの館で、リニューアルした館の活用を積極的に育て、地域に根付いた市民に親しまれる文化振興を目指す。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	市が参加者を募集し、講師は各種市民団体に依頼し開催している。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
体験教室の回数	日	目標値	1	1	1	1	1
		実績値	1	1	1		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
参加人数	人	目標値	120	120	350	350	350
		実績値	300	350	350		
計算根拠：参加人数で子どもたちの興味の度合いを計る。		達成率（%）	250	291.7	100		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	602	555
決算額	555	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.3
臨時・嘱託	0.01
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	補助費等

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	日本古来の伝統文化をはじめとして、市の歴史、産業、芸術文化を継承していかなければならないという機運は十分にある。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	伝統文化等の継承のために、子供たちを対象に芸術文化を総合的に体験できる事業を開催するためには、文化振興の面からも行政の関与が必要である。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	最小限のコストで実施している。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 受益者負担	根拠	参加料を徴収することは可能であるが、子どもたちに気軽に芸術文化に接してもらうために、無料（材料費のみ負担）で開催することとする。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	参加者の少ない茶道は取りやめて、子どもたちが身近に感じやすい、華道教室に絞った。毎年、体験内容を検討し、保護者や子ども達のニーズにあった企画にする。

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】
維持	統合
平成25年度取組み：5歳児、および小・中学生親子を対象に、まなべの館において、芸術文化や伝統産業等を幅広く体験できる事業を開催し、伝統文化や伝統産業の普及および継承を図る。また、子ども達の創造性、豊かな個性を育み、次世代の育成に努める。講師は、各種市民団体に依頼する。	平成26年度計画：5歳児、および小・中学生親子を対象に、まなべの館において、伝統文化や伝統産業等を幅広く体験できる事業を開催し、伝統文化や伝統産業の普及および継承を図る。また、子ども達の創造性、豊かな個性を育み、次世代の育成に努める。H26年度はリニューアルオープン5周年記念のため、名誉館長を交えて開催したい。体験考古学講座と統合する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 可能

〈不可能選択理由〉

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	可能	可能	可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	ふるさと鯖江検定事業	事業コード
		2549

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興 2051

重点施策体系

重点施策	分類(大)	分類(小)
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化 723

PLAN(計画)

部署名	文化課	開始年度	2008	終了年度	9999

目的

ふるさと鯖江に関する歴史・地理・文化・産業・経済などに関する検定を実施し、ふるさとへの理解を高める一助とする。

概要

検定：年1回、今年度のテーマは、さばえ人物ものがたり（上巻）から50問と、復習問題の中から50問で合わせて100問出題する。合格者には、越前漆器で作られた認定証を贈呈する。合格者については、市の文化事業の解説等に協力していただけるような方策を検討する。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	市直営で実施する。

DO(実施)

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
検定の実施	回	目標値	1	1	1	1	1
		実績値	1	1	1		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
受験者数（申込者数）	人	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	56	73	70		
計算根拠：検定の受験者数が、ふるさと鯖江について興味があるかどうかの目安になる。		達成率(%)	56	73.00	70.00		
		ランク	C	C	C		
		実数値		73			

事業費／千円

区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	415	192
決算額	415	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.2
臨時・嘱託	0.01
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	ご当地検定ブームもあり、ふるさと鯖江について学び、その成果を試してみたいとの市民ニーズは十分にある。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	正確な問題を作成し、検定を通して、正しい知識を身につけてもらい、その知識の活用を図るためには、行政の関与が必要である。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ある	主体	県
		事業名	考福学検定
		【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。	不可能
		根拠	鯖江市だけに関わる問題を作成し、検定を実施する必要がある。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課	
		事業名	
		【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。	不可能
		根拠	
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ある	根拠	認定書の単価を下げる。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 受益者負担	根拠	検定料を徴収する。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	広報活動を積極的に行う。

ACTION

【平成25年度　方向性】 維持

平成25年度取組み

もっと「ふるさとさばえ」を知っていただく方を広く浅く鯖江全域に浸透させるために、身近な鯖江の話題をテーマに出題する。より多くの人に受験していただけるように、今年度のテーマは、さばえ人物ものがたり（上巻）から50問と、復習問題の中から50問で合わせて100問出題する。
★H24年度は、文化課のホームページや、広報さばえ2月号に掲載して受験者を募集した。問題集を作ってホームページからプリントアウトできるようにした。

【平成26年度　方向性】 **維持**

平成26年度計画

もっと「ふるさとさばえ」を知っていただく方を広く浅く鯖江全域に浸透させるために、身近な鯖江の話題をテーマに出題する。H26年度のテーマは、さばえ人物ものがたり（下巻）から50問と、復習問題の中から50問で合わせて100問出題する。
★H26年度も継続して、文化課のホームページや、広報さばえ2月号に掲載して、受験者を募集したい。問題集も引き続き作成してホームページからプリントアウトできるようにしたい。丹南ＦＭやＦＢＣラジオ、丹

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	可能	可能	可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	鯖江市美術展開催事業	事業コード
		2556

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興

2051

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「人の増えるまち」づくり	健康と長寿の推進	生涯学習

833

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2008	終了年度	9999

目的

本市の美術文化の向上を図り、市民に親しまれる美術の祭典となることを目的とする。

概要

日本画・水墨画、絵画・造形、彫刻・立体、書道、工芸、写真、デザインの７部門に分けて、作品を募集し、審査の結果入選作品について、展示し、表彰を行う。会場は、まなべの館、響陽会館、ギャラリー新の3会場。会期は5日間。運営にあたっては、アートスタッフボランティアを募集する。アートワークショップを開催し、意見交換の場を設ける。また、子どもから大人まで気軽に美術に親しんでもらうために「気軽にアート展」を同時開催する。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	市民が主体となった実行委員会で実施する。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
作品の応募点数	点	目標値	500	500	500	500	500
		実績値	480	450	450		

成果指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
会場への来場者数	人	目標値	15000	15000	15000	15000	15000
		実績値	16500	18514	13300		
計算根拠：市民の文化意識の向上を会場への来場者数で判断する。		達成率（%）	110	123.4	88.7		
		ランク	A	A	B		
		実数値					

事業費／千円 区分	H24（2012）	H25（2013）
予算額	2,492	2,362
決算額	2,383	
繰越額	0	0

事業要員	
正規職員	0.5
臨時・嘱託	0.1
※所要時間	

タイプ	
会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	余暇を利用して、美術作品を制作したり、その作品を出展したいとの市民ニーズは高い。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	市全体の美術文化の向上を図ることが目的であるので、行政の関与は必要である。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ある	主体	県
		事業名	県美展
		【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。	不可能
		根拠	市美展は、広く、気軽に作品を募集するので、県美展との統合は不可能である。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課	
		事業名	
		【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。	不可能
		根拠	
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	報償費の占める割合が高いので、コストを削減する余地はない。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 受益者負担	根拠	出展料の増額が考えられるが、幅広く募集するとの趣旨からすると困難である。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	将来的には会場を一つにするなど、市民のニーズにあった関連事業等を同時開催したい。

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】
維持	**維持**
平成25年度取組み：７部門を３会場に分けて開催する。市民の意見をききながら、より市民に親しまれる美術展を目指す。開催期間を12月13日（金）～17日（火）に変更する。市民アンケートの声を生かした運営を行う。	平成26年度計画：７部門を３会場に分けて開催する。市民の意見をききながら、より市民に親しまれる美術展を目指す。開催期間、会場等について、市民アンケートを充分に活用する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	可能	可能	可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	市民主役によるまなべ学講座	事業コード
		2630

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興

2051

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化

723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2010	終了年度	9999

目的

鯖江藩主「間部」にちなみ、鯖江のことをいろいろな角度で学び、郷土に興味と誇りを持ってもらう。

概要

リニューアルされた「まなべの館」において、鯖江藩主間部家の名称にちなみ、「まなべ学」と題し、ふるさと鯖江に関する歴史・芸術・産業・自然等のさまざまな分野を代表する講師を招き、市民講座を開催する。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	市で講師を選定して、講座を開催している。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
講座開催数	回	目標値	4	4	4	4	4
		実績値	2	4	6		

成果指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
参加者数	人	目標値	200	200	200	200	200
		実績値	210	200	250		
計算根拠：参加者数によって、事業に対する関心が計れる。		達成率（%）	105	100	125		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円 区分	H24（2012）	H25（2013）
予算額	656	656
決算額	656	
繰越額	0	0

事業要員	
正規職員	0.2
臨時・嘱託	0.2
※所要時間	

タイプ	
会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	鯖江の基礎となった鯖江藩の歴史に対する関心度は高い。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	歴史に対する正確な認識、正確な情報を住民に提供することは、行政が実施すべき事業である。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能 間部詮顕彰事業を継続中であるため、現段階での廃止は不可能。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ある	所管課：鯖江公民館 事業名：殿様学習会 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能 殿様学習会は、惜陰小学校と進徳小学校の６年生を対象にした事業であるので、統廃合は不可能である。
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ある	根拠	講師を県外から招聘するのではなく、県内の方にお願いする。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 受益者負担	根拠	講座に参加する方から参加料を徴収することが考えられるが、広く、参加を求めることを考慮すると現実的には困難である。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	鯖江地区のまちづくり団体と協働して事業を実施する。

ACTION

【平成25年度　方向性】 維持	【平成26年度　方向性】 維持
平成25年度取組み：引き続き、（特）平成謙光社に委託して実施し、市の間部詮勝プロジェクト事業との連携を図る。	平成26年度計画：引き続き、市の間部詮勝プロジェクト事業との連携を図る。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	可能	可能	可能	可能
実施状況	－	実施	実施	実施	

〈不可能選択理由〉

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	近松のまち鯖江創出事業	事業コード
		3080

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興 2051

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化 723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2012	終了年度	9999

目的

平成２３年度で、まちづくり交付金事業が終了したが、その中で、継続性が必要なものについて予算付けし、さらなる「近松のまちさばえ」を情報発信する。

概要

・鯖江人形浄瑠璃「近松座」によるＰＲ公演委託（文化庁　文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業申請予定）
・子ども文楽交流（大阪いぶき野小学校と立待小学校との交流）（文化庁の助成を申請する予定）
・「立待月観月の夕べ」開催委託（財）自治総合センター助成金により実施。

法令根拠

実施形態

現在	民間等委託（一部）
内容	ＰＲ公演は、鯖江人形浄瑠璃「近松座」に委託、「立待月観月の夕べ」は、近松の里づくり事業推進会議に委託して開催する。子ども文楽交流は、大阪府和泉市いぶき野小学校の子ども文楽クラブを立待小学校へ招待して実施する。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
近松座による出前公演の回数	回	目標値			8	8	8
		実績値			7		

成果指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
たちまち近松まつり・立待月観月の夕べの観客数		目標値			8500	8500	8500
		実績値			9600		
計算根拠：「近松のまちさばえ」が浸透しているかどうかをイベントの観客数で判断する。		達成率（%）			112.9		
		ランク			A		
		実数値					

事業費／千円 区分	H24（2012）	H25（2013）
予算額	2,000	2,000
決算額	1,997	
繰越額		

事業要員	
正規職員	0.1
臨時・嘱託	0.1
※所要時間	

タイプ	
会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	ブランド力の高い近松門左衛門を情報発信して、「鯖江の近松」としてまちづくりを推進していくニーズがある。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	市が一体となって近松のまちづくりを推進していく必要がある。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	必要最小限の額で実施している。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 その他	根拠	財団等の助成金を活用する。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ない	根拠	

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】 維持
平成25年度取組み：鯖江人形浄瑠璃「近松座」」によるＰＲ公演委託、子ども文楽交流、「立待月観月の夕べ」開催委託の3つの事業を柱として、さらなる近松のまちを全国発信する。	平成26年度計画：鯖江人形浄瑠璃「近松座」」によるＰＲ公演委託、子ども文楽交流、「立待月観月の夕べ」開催委託の3つの事業を柱として、さらなる近松のまちを全国発信する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

一者随契等の特定の相手先への委託事業のため

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	まなべの館管理運営事業	事業コード
		1736

総合計画体系

基本施策体系	基本目標	属性	基本施策	実施施策
	豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興 2051
重点施策体系				

PLAN（計画）

部署名	まなべの館	開始年度	1978	終了年度	9999
目的	博物館活動（歴史、芸術、民俗等の調査、研究、収集、保管、展示等）に努め、市民の主体的な文化活動の推進や活動の場の充実を図り、文化振興に寄与する。また、これをもって豊な社会の形成に寄与していく。				
概要	まなべの館が有する博物館機能を通して豊かな心を育もうとする市民の日常生活をサポートし、新たな文化の創造を支援するとともに、芸術・歴史等の資料の収集、継承と活用を図る。				
法令根拠	鯖江市まなべの館設置および管理に関する条例第1条				
実施形態	現在	市直営			
	内容	施設の管理および博物館事業など条例に記載されている事業（文化関係全般）を実施。			

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
創造空間事業の開催	回	目標値	8	10	10	20	20
		実績値	11	9	22		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
入館者数	人	目標値	15000	15000	20000	20000	20000
		実績値	32778	25871	22372		
計算根拠：入館者数によって、市民の施設（の事業等）に対する関心度を計ることができる。		達成率（%）	218.5	172.5	111.9		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円	区分	H24(2012)	H25(2013)
	予算額	24,913	25,970
	決算額	22,655	
	繰越額	0	0

事業要員		
	正規職員	0.5
	臨時・嘱託	1
	※所要時間	

タイプ		
	会計	一般会計
	事業タイプ	補助（県）事業
	経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	多くの市民が歴史や芸術に関心を寄せるなど、文化全般への志向の高まりと欲求は多様な文化活動となっており、これを保証・補完することが事業の目的であるから、妥当である。また、来館者利用者数は年々増加しており、アンケート調査においても博物館事業に関する様々な要望が寄せられている。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	鯖江市まなべの館設置および管理に関する条例第１条に明記されており、行政が関与する必要性がある。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	経費を限界まで削減しており、これ以上削減の余地はないと思われる。また、増改築工事により施設が大きくなったことから、これまで以上に運営管理コストがかかる。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	管理運営については他の財源確保メニューは見当たらず、困難と思われる。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	リニューアルにより館の施設設備の質向上を図ることが出来たため、事業運営次第で成果向上は可能である。

ACTION

【平成25年度　方向性】 維持	【平成26年度　方向性】 **維持**
平成25年度取組み：利用者が利用しやすい維持管理に努め、また、常設展・企画展・共催展の充実を図り、利用者の増加を図る。	平成26年度計画：利用者が利用しやすい維持管理に努め、また、常設展・企画展・共催展の充実を図り、利用者の増加を図る。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

その他

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	まなべの館企画展開催事業	事業コード
		2629

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	芸術文化の振興

2051

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化

723

PLAN（計画）

部署名	まなべの館	開始年度	2011	終了年度	9999

目的

博物館活動の中核を担う特別展覧会事業をとおして、教育・学術向上への寄与を図るだけでなく、本市の歴史・芸術文化等の向上を図ることを目的とする。また、リニューアルしたまなべの館（旧資料館）の活用を積極的に図り、安定した事業運営を確保する。

概要

歴史、芸術、民俗、産業、自然科学および現代社会が抱える問題などから、毎年異なるテーマのもと特別展覧会を開催する。企画展開催事業は、今年度は「西山真一・松生親子油彩画展」「かとうかずお立体漫画おもしろ僧展」「鯖江の至宝展～近年指定の文化財～」「水森亜土イラスト原画展」の4企画を実施。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	企画展の開催については、まなべの館としての方向性、開催方針があるので、市直営とする。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
企画展の開催	回	目標値	0	3	3	4	3
		実績値		5	4		

成果指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
来場者数	人	目標値	0	5000	5000	5000	5000
		実績値		7741	12282		
計算根拠：観覧者数で市民の展覧会に対する関心度が計れる。		達成率（%）		154.8	245.6		
		ランク		A	A		
		実数値		A			

事業費／千円

区分	H24（2012）	H25（2013）
予算額	5,000	5,000
決算額	4,823	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.5
臨時・嘱託	0.5
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	地域芸術文化資源や現代アート等を鑑賞したいとの市民のニーズに十分にある。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	企画展開催のためには、予算に裏づけされた作家や美術館との調整が必要不可欠であり、そのようなことからも行政が実施すべき事業である。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ある	主体	県立美術館等
		事業名	企画展・特別展
		【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。	不可能
		根拠	鯖江市と関わりのある作家たちを重点的に紹介することは、他の美術館等では不可能である。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課	
		事業名	
		【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。	
		根拠	
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	展覧会事業を実施するうえで最低限の予算である。これ以上の予算削減は質の低下につながり、来館者数の減少を招く。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 受益者負担	根拠	企画展を鑑賞する人から、入館料を徴収する。しかし、多くの人に見てもらうことを基本に考えると、なかなか困難である。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	現状の予算ではなかなか難しい。ただし、来館者の約半数は市外からと思われるが、残りの半数は鯖江市民なので、地元のリピーターを増やす工夫の構築で、来館者数は増やせると考える。

ACTION

【平成25年度　方向性】	維持
平成25年度取組み	毎年異なるテーマを考え、特別展覧会を開催する。今年度は「西山真一・松生親子油彩画展」「かとうかずお立体漫画おもしろ僧展」「鯖江の至宝展～近年指定の文化財～」「水森亜土イラスト原画展」の4企画を実施。

【平成26年度　方向性】	**維持**
平成26年度計画	毎年異なるテーマを考え、特別展覧会を開催する。まなべの館リニューアルオープン5周年記念事業として館のＰＲ、利用拡大につなげる。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

その他

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	文化財解説看板設置事業	事業コード
		571

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用

2052

重点施策体系

重点施策	分類(大)	分類(小)
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化

723

PLAN(計画)

部署名	文化課	開始年度	1997	終了年度	9999

目的

文化財がもっている歴史的価値やいわれを解説することで、市内に点在する文化財に対する市民の理解を深め、その保存と活用を推進する。。

概要

貴重な文化財を多くの市民に知ってもらい、保存等についての理解を深めるために、10ヵ年の設置計画を作成し、毎年、4件をめどに、解説看板を設置する。平成24年4月現在、指定・登録件数は153件（解説板設置済み51件、未設置102件）で、未設置のうち解説板必要件数は43件、不必要件数（無人の神社など防犯上好ましくない）は59件である。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	市で指定文化財や市内に存在する文化遺産等から設置対象を選択し、説明看板を設置する。

DO(実施)

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
※設定困難		目標値					
		実績値					

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
指定文化財および文化遺産解説看板設置基数	基	目標値	4	4	4	4	4
		実績値	4	4	4		
計算根拠：毎年増加する指定・登録文化財や文化遺産に対し年4基ずつ設置することによって、文化財をはじめとする地域の歴史遺産の保存保護等啓発を図る。		達成率(%)	100	100	100		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	1,176	1,176
決算額	1,176	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.25
臨時・嘱託	
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	普通建設事業費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	市内に存在する文化財を詳しく知りたいと思っている人は多い。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	市民や観光客に、正しく文化財の解説を周知する必要があるので、行政が関与しなければならない。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能	
		根拠	指定文化財は毎年増加しているので、当面、事業の廃止はできない。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ある	所管課：各地区のまちづくり事業 / 事業名 / 【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能	
		根拠	鯖江市教育委員会では、統一したデザインで看板を設置している。
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	統一した決まった様式・デザインであるので、コスト削減の余地はほとんどない。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 補助金等の活用	根拠	まちづくり交付金や市町振興プロジェクト事業補助金を活用する方法はある。（近松等の偉人関係に限定）
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	設置看板の数を増やす。（平成２１年度から４基設置予定）

ACTION

【平成25年度　方向性】 維持	【平成26年度　方向性】 **維持**
平成25年度取組み：指定登録文化財は今後も増やしていく方向で調査を進めているので、看板設置事業も維持していくことが必要である。	平成26年度計画：指定登録文化財は今後も増やしていく方向で調査を進めているので、看板設置事業も維持していくことが必要である。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

その他

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	指定文化財管理事業	事業コード
		586

総合計画体系

基本施策体系	基本目標	属性	基本施策	実施施策	
	豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用	2052

重点施策体系	重点施策	分類（大）	分類（小）	
	「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化	723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	0	終了年度	9999

目的	指定文化財を良好な状態に維持管理するとともにその活用を促進する。
概要	「旧瓜生家住宅」、「史跡王山古墳群」の管理諸経費および「兜山古墳」、「三峯城跡」、「今北山・磯部・弁財天古墳群」の管理報償
法令根拠	
実施形態 現在	民間等委託（一部）
実施形態 内容	管理については、シルバー人材へ委託。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
管理施設数	ヶ所	目標値	2	2	2	2	2
		実績値	2	2	2		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
瓜生家住宅の入館人数	人	目標値	1000	1000	1000	1000	1000
		実績値	1200	1000	1000		
計算根拠：社会教育・学校教育の場として活用してもらう。また、コンサート等としても活用を図る。		達成率（%）	120	100	100		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円 区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	4,320	3,942
決算額	4,320	
繰越額	0	0

事業要員	
正規職員	0.25
臨時・嘱託	
※所要時間	

タイプ	
会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	後世に残していくために、適切な指定文化財の管理は、市民の文化意識の高揚のためにも必要であり、また、まちづくりの資源としての文化財の保存は、市民の要望も強い。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	指定文化財は、市が指定するものであって、その適切な管理には、行政の関与が必要である。指定文化財
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能	
		根拠	市所有の文化財は市が管理する
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能	
		根拠	
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	シルバー人材を活用するなどしているので、コストを削減する余地はない。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 受益者負担	根拠	旧瓜生家住宅については、入館料の徴収が考えられるが、多くの人が、文化財を訪れて、理解を深めるとの面からは困難である。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	旧瓜生家住宅の開館日は、週４日であるが、開館日を増加すれば、入館者は増加すると思われるが、管理委託経費も増加する。

ACTION

【平成25年度　方向性】 維持	【平成26年度　方向性】 **維持**
平成25年度取組み：市管理の文化財については、例年どおり市で管理する。また、民間所有の古墳群など、地元で管理団体が組織されているものについては、管理報償費を執行する。	平成26年度計画：市管理の文化財については、例年どおり市で管理する。また、民間所有の古墳群など、地元で管理団体が組織されているものについては、管理報償費を執行する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

一者随契等の特定の相手先への委託事業のため

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	市民主役によるまちかど歴史浪漫コンサート	事業コード
		2080

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用

2052

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化

723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2006	終了年度	9999

目的

文化財建造物を舞台としたイベントを開催することにより、文化財の保存と活用に関する理解を深めるとともに、まちづくりの貴重な素材としての理解につながる機会を提供する。

概要

文化財建造物の内外を舞台として会場を設営し、音楽等コンサートを行う。その際には、文化財等をライトアップし、市民が直接、目に触れる機会を提供する。

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	文化財の活用として、市が主体で実施する。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
文化財建造物を舞台としたコンサート等の実施	回	目標値	1	1	1	1	1
		実績値	1	1	1		

成果指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
観客者数	人	目標値	200	200	200	200	200
		実績値	300	300	300		
計算根拠：集客数で文化財に対する理解度を計る。		達成率（%）	150	150	150		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24（2012）	H25（2013）
予算額	1,230	1,230
決算額	1,230	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.25
臨時・嘱託	
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	文化財に対する市民の関心は、年々高まっており、市民が文化財に直接に触れる機会の提供が必要である。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	文化財は、まちづくりの重要な素材であり、文化財の保存のほか、まちづくりの面からも行政の関与は必要である。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能	
		根拠	毎年、300人を越える参加者を数えている事業は、市民のニーズがあると判断してよい。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能	
		根拠	
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	多くの市民に参加してもらうような企画を立案しなければならないので、出演者・音響・照明の面からもコスト削減は困難である。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 その他	根拠	地域と一体となつたまちづくりの観点から、地域のまちづくり団体等に、経費の一部を負担してもらう。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	開催回数を増やしたり、著名な出演者に依頼すれば、観客数は増えると思われるが、経費の面で問題がある。

ACTION

【平成25年度　方向性】 維持	【平成26年度　方向性】 **維持**
平成25年度取組み：提案型市民主役事業として委託する。	平成26年度計画：提案型市民主役事業として委託する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	可能	可能	可能	可能
実施状況	－	実施	実施	実施	

〈不可能選択理由〉

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	今北山・磯部・弁財天古墳群調査事業	事業コード
		2427

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用

2052

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化

723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2008	終了年度	2017

目的

国指定文化財の上位指定を受けるために、地形測量・発掘調査を実施し、その概要を明らかにする。

概要

市指定文化財である「今北山・磯部・弁財天古墳群」について、国指定史跡への上位指定を目指し、遺跡の内容把握のための調査（10ヵ年計画H20～H29年度）を実施する。地形測量、発掘調査12基、資料整理作業、報告書刊行（100ページ、300部）

法令根拠

文化財保護法

実施形態

現在	市直営
内容	市が主体となって実施する。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
※設定困難		目標値					
		実績値					

成果指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
事業全体進捗率（発掘面積・地形測量・地元説明会の開催、調査報告書の刊行）	%	目標値	30	40	50	60	70
		実績値	48	40	50		
計算根拠：平成29年度までに調査事業を終了する予定。		達成率（%）	96	100	100		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24（2012）	H25（2013）
予算額	7,525	8,260
決算額	7,502	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.5
臨時・嘱託	0.5
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	補助（国）事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	今北山・磯部・弁財天古墳群は、丹南地方最大の前方後円墳を有しており、その歴史的価値は高い。今後は、国指定の上位指定を目指し、市の宝として保存・活用する方策を検討していく必要がある。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	市指定文化財であり、調査・整備には、行政が関与する必要がある。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能 今北山古墳群の調査は平成29年度まで継続する計画である。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	国の上位指定に向けて、必要事業を行っている。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	国の補助対象事業として実施している。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ない	根拠	国の上位指定に向けて必要な事業を行っている。

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】
維持	**維持**
平成25年度取組み：平成23年度の調査成果により、極めて重要な遺跡と認定され、全体計画を10ヶ年（H18～H29）に延長した。	平成26年度計画：今北山古墳群の調査は平成29年度まで継続する計画であるので、このまま継続して実施していく。なお、事業規模については「維持」と想定しているが、調査成果に応じては「拡大」となる可能性もある。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

その他

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	市内重要遺跡調査事業	事業コード
		2727

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用

2052

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化

723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2010	終了年度	2019

目的

市内に存在する重要な遺跡（指定文化財候補）について、その概要を把握するための調査を実施し、新たな指定文化財の発掘につなげる。

概要

全体で古墳群・城跡など、市内に点在する10遺跡程度を予定しており、毎年、1～2遺跡程度を基礎調査として測量を実施する。必要に応じて発掘調査を実施する。平成24年度は、「丹波岳城跡」を測量調査した。

法令根拠

文化財保護法

実施形態

現在	市直営
内容	市が市内に存在する貴重な遺跡の中から、１～２箇所を選択して、測量の基礎調査を実施する。平成２４年度は丹波岳城跡の測量調査を実施する。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
※設定困難		目標値					
		実績値					

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
事業実施箇所	箇所	目標値	1	1	1	1	1
		実績値	1	1	1		
計算根拠：実施箇所／実施予定箇所		達成率（%）	100	100	100		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	1,295	3,560
決算額	1,102	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.1
臨時・嘱託	
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	住民と一体となった地域の特色あるまちづくりには、文化的な要素が不可欠であり、特に地域に存在する文化財は、まちづくりの貴重な素材であり、地域住民のニーズも十分にある。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	この事業は、基礎調査を実施して、市指定文化財への指定をめざすものであり、文化財保護の観点から行政が実施する事業である。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能
効率・効果		根拠	指定文化財を増やす方針で施策が進められているので、そのための基礎資料を得るための本事業は必要である
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能
効率・効果		根拠	
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	文化財指定に必要なだけの測量を実施するものであるので、コストを削減する余地はない。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	基礎調査の測量段階では、補助金等の活用はできないが、発掘調査段階に入ってくると文化庁の補助金が活用できる。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	基礎調査を終了し、市指定文化財に指定する段階になると、地域特有のまちづくりの素材として活用でき、地域住民のまちづくりに対する意識の向上につながる。

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】
維持	**維持**
平成25年度取組み：指定文化財を増やすためには調査が必要なため、この事業は維持すべきである。	平成26年度計画：指定文化財を増やすためには調査が必要なため、この事業は維持すべきである。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

その他

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	間部詮勝プロジェクト	事業コード
		2910

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用

2052

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化

723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2011	終了年度	2014

目的

第7代鯖江藩主であり幕末動乱期の老中として国政に当った間部詮勝の功績や歴史的評価について、正しく検証し、市内外へアピールする。平成23～26年度の4ヶ年計画で実施。それぞれ年度ごとにテーマを設定して、市民参加の学習会をベースに記念講演・シンポジウム・啓発書籍の刊行・映像資料の作成・特別展の開催などを実施していく。（年度テーマ　→　平成23年度「天保の改革と詮勝」・平成24年度「鯖江の藩政改革」・平成25年度「開国と幕末動乱」・平成26年度「気概の人　間部詮勝」）

概要

①「さばえ幕末明治維新を学ぶ会」を立ち上げ、学習会の開催し、間部詮勝の即席をたどる（4年間、月1回）、②講演会・シンポジウムの開催（4年間、基調講演3本、シンポジウム1回）、③啓発書籍の刊行（一般向けガイドブック・解説書・マンガ人物史・シンポジウム記録集、④映像ソフトの制作（まなべの館展示ソフトの更新）、⑤テレビ番組の制作（半生を描いたドラマ・人物史をテーマにした企画番組）、⑥銅像の制作、⑦ウォーキングラリーの開催（詮勝・鯖江藩の足跡をたどるイベント）

法令根拠

実施形態

現在	市直営
内容	学習会の組織・運営・連絡等を市職員が行う。シンポジウム・講演会等の実施も市職員が行う。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
学習会の開催回数	回	目標値		12	12	12	12
		実績値		18	14		

成果指標

指標名	単位	年度	H22（2010）	H23（2011）	H24（2012）	H25（2013）	H26（2014）
シンポジウム参加人数	人	目標値		100	100	100	100
		実績値		200	150		
計算根拠：企画の趣旨に触れた人数を指標とする。		達成率（%）		200	150		
		ランク		A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24（2012）	H25（2013）
予算額	6,100	0
決算額	500	
繰越額	0	5,600

事業要員

正規職員	1
臨時・嘱託	1
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	補助（国）事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	鯖江藩主間部家および老中「間部詮勝」を顕彰すべきとの声は以前よりあった。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	郷土に誇りを持てる子供たちを育てるという教育的観点からも郷土の偉人顕彰事業は行政は実施すべき。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能
		根拠	平成26年度までの継続事業であるので廃止は不可能。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能
		根拠	
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	現在は市民参加学習会と講演会を主体とした事業内容であり、その講師も市職員や市民（無償）が中心で、これ以上削減する余地はない。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	国、県、財団法人等の補助申請を行っているが、現時点では補助対象事業としての認定が得られていない。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	学習会や講演会で得られた成果を、書籍や映像資料として広く配布していけば、その成果は目に見える形となって流布していく。

ACTION

【平成25年度　方向性】 内容拡大	【平成26年度　方向性】 内容拡大
平成25年度取組み：当プロジェクトはH23年度から26年度までの事業として取り組んでいるが、26年度の節目の年となる前のH25年度以降は、間部家に関する冊子刊行やテレビ番組・映像資料・グッズなどの作成等が必要である。	平成26年度計画：平成２６年度は間部詮勝生誕210周年、藩主就任200周年にあたる年で、プロジェクト最終年度となる。このため、「まちづくり交付金」を活用しまなべの館の常設展示室「まなべの部屋」の展示替えや企画展示などを行い集大成とする。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

その他

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	考古学講座（明治大学連携事業）	事業コード
		3081

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用 2052

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化 723

PLAN（計画）

部署名	文化課	開始年度	2012	終了年度	9999

目的

平成23年11月24日に締結した「鯖江市・明治大学連携協定」に基づき、明治大学の知的資産・人材を鯖江市の文化・学術の研究・交流に活用する。具体的には、現在、発掘調査を実施している今北山・磯部・弁財天古墳群で検出された遺構について、地元住民ほか広く市民の理解を深めるために一般向けの講演会開催を計画しているので、これを明治大学に委託する。

概要

講演会の開催（2回）
　※今北山・磯部・弁財天古墳群の調査では、①弥生時代の高地性環濠集落と②前方後円墳が特徴的であるので、それぞれを専門とする研究者に講演を依頼する。

法令根拠

なし

実施形態

現在	民間等委託（全部）
内容	明治大学社会連携事務室に委託し、講演会を開催する。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
講演会開催数	回	目標値			2	2	
		実績値			2		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
講演会参加者数	人	目標値			60	60	60
		実績値			100		
計算根拠：講演会参加者数　30名/回		達成率（%）			170		
		ランク			A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	300	300
決算額	300	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.08
臨時・嘱託	0.08
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK（評価）

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	発掘調査現地説明会の開催を呼びかけたところ100名以上の参加があったことから、ニーズは十分あるものと判断できる。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	明治大学連携事業については、市が明治大学と協定を締結しているものであり、また、発掘調査事業についても行政が実施し内容を把握していることから行政が実施すべきである。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能
効率・効果		根拠	今北山古墳群調査事業は平成29年まで継続し、その後も用地買収・整備工事へと長期継続する。よって、地域住民の理解が必須となるため、この事業は継続して実施する必要がある。
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能
効率・効果		根拠	
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ある	根拠	講座の回数を減らすことで若干のコスト削減は可能と考えられるが、契約や教授陣との摺り合わせといった基本的事務や遺跡の事前視察・研究をおこなう必要性があるため大幅な削減は困難と考えられる。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	市が明治大学と協定を締結している特定の事業であり、財源を広く確保することは困難と考えられる。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	予算次第であるが、講座の回数を増やせば集客効果は高くなるものと考えられる。

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】 維持
平成25年度取組み	平成26年度計画：今北山古墳群調査事業は平成29年度まで継続し、その後も用地買収・整備工事へと継続していく。よって、事業の円滑な推進のためには地域住民の理解が必須であるため、今後もこの事業は継続することが重要である。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

0

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	市内文化財悉皆調査事業	事業コード
		3082

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用 2052

重点施策体系

重点施策	分類(大)	分類(小)
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化 723

PLAN(計画)

部署名	文化課	開始年度	2011	終了年度	9999

目的

指定文化財を増やし、郷土に誇りを持つ人材の育成を図るために、指定文化財候補となるべき物件の悉皆調査を実施する。

※平成19～21年度に実施した建造物調査事業（福井工大委託）も同趣の事業である

概要

①市内に存在する石碑（記念碑・墓碑・顕彰費など）をすべてリストアップし、所在地の確認・写真撮影・拓本の作成・碑文の判読などを実施する。また、調査成果は「報告書」として刊行し、資料化する。
②平成22年度に現地調査を実施した絵馬･俳句額等調査の調査報告書を刊行し、資料化する。※一般にも販売予定

法令根拠

なし

実施形態

現在	市直営
内容	市職員（学芸員）が直接市内各地の文化財を訪問し、調査を行う。

DO(実施)

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
悉皆調査の回数	回	目標値		20	10	10	10
		実績値		20	10		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
調査した文化財の数	件	目標値		400	30	50	50
		実績値		500	90		
計算根拠		達成率(%)		125	300		
		ランク		A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	1,000	300
決算額	1,000	
繰越額		

事業要員

正規職員	0.17
臨時･嘱託	0.67
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	指定文化財の候補物件の特定を行うという性格の事業であり、市長の指定文化財を増やすというマニフェスト実現の一翼を担うものであるため、ニーズはあるものと判断される。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	悉皆調査は学芸員が直接訪問し実施するものであり、専門的な知識・技術をもつものは市内では学芸員のみである。よって行政が実施すべきである。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ない	主体 / 事業名 / 根拠	【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能 指定文化財を増やすという施策を推進するためには、この事業は必要である
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ない	所管課 / 事業名 / 根拠	【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 不可能
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。	根拠	
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 なし	根拠	市町村内における文化財の悉皆調査についての補助メニューは知られていない。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。	根拠	

ACTION

【平成25年度　方向性】

平成25年度取組み：石碑・記念碑等の調査を進め、調査報告書を刊行し、広く市民へ周知する。その後、文化財審議会へ諮問し、歴史的に貴重なものは文化財に指定する。

【平成26年度　方向性】 **維持**

平成26年度計画：新たなテーマを設定し、悉皆調査を実施する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

0

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

事業名	鯖江市内遺跡活用事業（体験考古学講座）	事業コード
		2620

総合計画体系

基本施策体系

基本目標	属性	基本施策	実施施策
豊かな心を育む文化の薫るまちづくり	文化・芸術	歴史・伝統・文化を伝承し創造する	文化財の保護・活用

2052

重点施策体系

重点施策	分類（大）	分類（小）
「鯖江ブランド」づくり	郷土の誇りを未来につなぐまちづくり	歴史文化

723

PLAN（計画）

部署名	まなべの館	開始年度	2009	終了年度	2013

目的

実際に昔の道具を作ったり昔の生活を行うといった体験等を通して、先人の生活・知恵等について学び、市内に点在する遺跡の重要性をはじめ文化財の保存・保護について理解してもらう。

概要

昔の生活に直結する道具や料理などの創作活動や史跡を巡るなどの体験活動等を行う。

法令根拠

鯖江市まなべの館管理および運営に関する規則第3条

実施形態

現在	市直営
内容	これまで考古学を中心とした昔の暮らし体験について、親子を中心とした参加者層に実施。講師は学芸員を中心に知識を有する者を中心としてきた。

DO（実施）

活動指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
体験講座	回	目標値	1	1	1	1	
		実績値	1	1	1		

成果指標

指標名	単位	年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
参加者	人	目標値	20	20	20	20	
		実績値	28	40	40		
計算根拠：参加者数で、市民の講座に対する関心度が計れる。		達成率（%）	140	200	200		
		ランク	A	A	A		
		実数値					

事業費／千円

区分	H24(2012)	H25(2013)
予算額	90	90
決算額	90	
繰越額	0	0

事業要員

正規職員	0.2
臨時・嘱託	0.5
※所要時間	

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

平成25年度　事務事業評価_事務事業調書　（評価対象事業）

CHECK(評価)

必要性	【ニーズ】住民等のニーズは十分にありますか。 ある	根拠	一部地域への募集で定員の倍近い応募があったため十分ニーズはある。
必要性	【行政関与】行政が実施すべき事業ですか。 はい	根拠	専門的知識及びスキルは学芸員しか持ち合わせていないため、行政が実施すべき。
効率・効果	【競合】国、県、または民間のサービスと競合している事業はないですか。 ある	主体 / 事業名 / 根拠	文化財保護や郷土愛の意識醸成に必要不可欠であるため。また、事業そのものに対するニーズが高いため。 【廃止可能性】ある場合、当該事業の廃止は可能ですか。 不可能
効率・効果	【類似重複】本市の事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業はないですか。 ある	所管課：文化課 事業名：芸術文化体験事業 根拠	既存の事業に「歴史分野」を取り入れて、ひとつの事業として実施する。 【統廃合可能性】ある場合、当該事業の統廃合は可能ですか。 可能
効率・効果	【コスト削減】今以上に、コストを削減する余地はありますか。 ない	根拠	極めて小額な予算で実施しており、これ以上の削減は事業の実施に大きな影響を与える。
有効性	【財源確保】今以上に、財源を確保する方法はありますか。 受益者負担	根拠	受益者負担により多少は可能である。
有効性	【成果向上】今以上に、成果を向上させる余地はありますか。 ある	根拠	事業の質を確保するための参加者数は限られており、現状以上の参加者数は質を落とすことになる。

ACTION

【平成25年度　方向性】	【平成26年度　方向性】
維持	統合
平成25年度取組み：引き続き継続していく。内容としては、これまで定番の火起こし体験・弓矢の制作と的当てゲーム・玉作りなどの他に、場所・時間帯の調整を前提とするが、土器作り・遺跡発掘体験なども取り入れていきたい。	平成26年度計画：芸術文化体験事業に統合する。

【H26提案型市民主役オープン事業実施】 不可能

年度	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
取組選択	－	可能	可能	可能	不可能
実施状況	－	未実施	未実施	未実施	

〈不可能選択理由〉

その他